感染症週報

令和8年2月16日発行

小笠原での流行状況

第7週（ 2月9日 から 2月15日まで ）

父島　感染性胃腸炎の報告が7例ありました。
インフルエンザの報告がありました。

母島　インフルエンザの報告がありました。

※　５例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

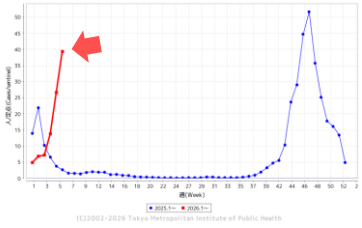
第6週（2月1日～2月8日）

【警報・注意報】

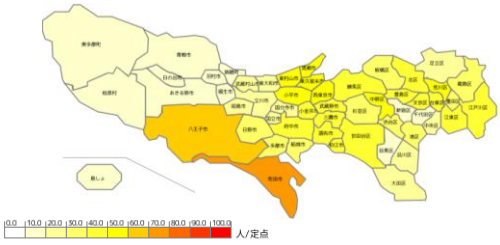
- **インフルエンザ**　警報レベル
  （定点患者報告数　39.39 ）

東京都内における定点当たり患者報告数の年別推移

B型が多い



都内の保健所別定点当たり患者報告数（第5週）



【ピックアップ】

- **感染性胃腸炎**　村内でも出ています
  （定点患者報告数　14.34　）
- **新型コロナウイルス感染症**
  （定点患者報告数　2.04⬆）

カプノサイトファーガ感染症

カプノサイトファーガ属は、ヒトや犬、猫の口の中にいる常在細菌の1つです。このうち、犬や猫が持っているカニモルサスという菌は、まれにヒトに感染することがあります。発症すると敗血症を起こし急速に重症化することがあります。

どんな病気？

犬や猫に咬まれたり、引っかかれたり、傷口を舐められたり、動物と触れ合った手で、傷のある皮膚に触れるなどで感染します。

発症すると、初期は発熱、だるさ、腹痛、吐き気、頭痛など、風邪や胃腸炎に似た症状があらわれます。

脾臓のない人、免疫力が低下している人、高齢者は重症化しやすいと言われています。重症化すると急速に症状が悪化し、多臓器不全、髄膜炎などに進行することがあります。

予防のポイント

- ◆ 噛まれたり引っかかれたりしたらすぐに流水と石けんでよく洗いましょう。
- ◆ 傷口は消毒し、傷が深い場合や出血が多い場合は早めに医療機関を受診しましょう
- ◆ 動物と触れ合った後は手洗いをしましょう。
  自分に傷があるときは舐めさせないようにしましょう。

受診の目安

犬や猫に咬まれたりひっかかれた後、発熱、倦怠感、腹痛、息苦しさ、意識がぼんやりする、皮膚に紫斑がでた場合は、早めに受診しましょう。特に脾臓がない人は症状が軽く見えても受診しましょう。

感染症メモ

猫と犬を飼うことは、心の健康にも体の健康にも良い影響があるといわれています。犬は散歩や遊びを通じて運動の機会を増やし、生活リズムを整える助けになりますし、猫は室内でのふれあいやゴロゴロ音などが気分転換になったり、ストレスを軽減してくれることがあります。どちらも家族以外の「話し相手」になり、孤立感を和らげる効果も期待できます。また、子どもにとっては命を大切にする気持ちや観察力が育ちやすく、高齢者では日々の張り合いになる場合も。一方で、咬傷・ひっかき傷、ノミ・マダニ、トイレの衛生管理など感染症予防も大切です。手洗い、定期的な健康管理、予防薬の活用を心がけ、動物とも人とも安心して暮らせる環境を整えましょう。

習慣にしよう！　感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所